

まほろばだより

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

創刊号



奈良県立医科大学は 研究者にとっての「まほろば」を目指します！

創刊号に寄せて 学長 吉岡 章



女性が働きやすい、働きがいのある職場」は、「男性にとっても働きやすく、働きがいのある職場」であるとの基本的な考えのもとに、本学は平成23年3月に当センターを設立しました。幸い、平成23～25年度の文部科学省の事業として採択され、助成金を得て23年度後半から

本格的に活動を開始しています。

「まほろば」の愛称は、設置に参画した女性教員・研究者の提案でした。「大和（倭）は国のまほろば たたなずく青垣 山ごもれる大和（倭）し うるわし」と日本武尊（倭建命）によって詠まれた

大和は、まさにここ奈良県の中和地域を指します。日本武尊は九州で熊襲（くまそ）を退治し、帰国後その疲れも癒えぬまま、父、景行天皇の命により東国に再び兵を進め、ようやく鎮定しましたが、大和へ帰還の途中、三重県伊勢地方で倒れます。この時の辞世の歌（前述）に大和への狂おしいほどの郷愁の念を示しています。ここ大和は、日本武尊が云う「まほろば」、即ち優れて美しく、住みやすいところの意味であります。

縁あって、奈良県立医科大学に籍を置いた教職員・学生の皆さん、どうかここが「国のまほろば」、「皆様のまほろば」であると信じ、「夢、喜び、やりがいの3Y」に溢れた理想の大学、病院を目指し、心を一つにして精進されることを祈念します。

奈良医大は当センターをあたたく見守り、育てて参ります。

ニュースレター発刊のご挨拶 センター長 喜多 英二

本センターでは、優れた女性医師・看護師・研究者の育成、増加・定着を図るため、種々の女性研究者支援策を実施しております。妊娠・出産・育児、介護中の女性教職員を対象に、保育園の充実化、研究・実験補助員の配置、勤務上の悩み等の相談窓口開設、さらには若手女性研究者の優れた研究成果を顕彰して研究意欲を高める等、多くの事業を展開しております。

本センターの事業内容をより多くの方々に理解して頂き、一人でも多くの女性研究者にセンターを利用して頂くことを目的に、ニュースレターを定期的に発行する運びとなりました。是非ともご活用下さり、全ての教職員が生き生きと活躍できる快適な職場環境づくりにご協力下さい。



『研究の継続』に取り組みます！ マネージャー 御輿 久美子



女性研究者支援で最も重要なことは、研究の継続であると思っています。研究は、長期間中断してしまうと復帰が難しいものです。とくに、育児の時期は、研究者としても活発に研究をおこない実績を挙げる時期と重なるため、育児休業をすれば研究が進まず、研究を優先しようと思っても育児をおろそかには出来ないといったジレンマに陥ります。また、休業はして

いなくても、上司や同僚の無理解等により、研究が出来なくなる事態もあり得ます。

女性研究者支援センターでは、研究の継続・発展のための障害を取り除きすべての研究者が生き生きと研究に邁進できる環境をつくりたいと思っています。研究の推進・発展が大学の発展のためには不可欠であると思うからです。

センターの5つの取組み

- [1] 女性研究者の研究継続を支援します
ライフイベント中の女性研究者への研究支援員配置。
- [2] シンビオティック（共生）ラボを設置しています
ハラスメントや人間関係の問題解決のサポート。
- [3] 学生、院生等に対するキャリア形成支援を行います
- [4] 女子中高生医理系進路選択支援を行います
- [5] 女性研究者の増加を目指します



活動報告 >>

>> Report 1 キックオフミーティングを開催しました (H23.12.16)

奈良県立医科大学は文部科学省の平成23年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受け、女性研究者支援センター「まほろば」を中心に女性研究者に対する様々な支援活動に本格的に取り組み始めました。

事業の開始に先立ち、他大学より2名の先生をお招きして、キックオフミーティングを開催しました。

多田先生からは、ご自身のこれまでの仕事の経験談を交え、「仕事があるからこそ得られる出会いがあり、またその体験を次の世代へ継続していくことが重要である。」と女性にとって仕事を続けていくことの大切さをお話いただきました。

桃井先生からは、男女共同参画社会について諸外国と比較したデータをもとに日本の現状をわかりやすく説明いただき、女性が職業人生を築くため、今後日本では「男女共の意識改革、育児・家事への社会インフラ整備が必要である。」とのお話をいただきました。

講演後の交流会にも多くの方にご参加いただき、今後の女性研究者支援活動にとって有意義なミーティングとなりました。



演題『仕事を通じた出会いと学び』
多田 敏子先生 徳島大学大学院 保健科学教育部長



演題『女性研究者・医師育成のあるべき方向性』
桃井 真里子先生 自治医科大学 医学部長

>> Report 2 ハラスメントに関する講演会を開催しました (H24.2.17)



オーストラリアより臨床心理士の Evelyn M. Field 氏をお招きし、職場ハラスメントに関する講演会を開催いたしました。

“Bully Blocking-understanding and managing workplace bullying” 職場いじめの防止—理解と対策—と題された講演で Evelyn 氏は、職場いじめが周囲に与える影響や、いじめに対処するためのいくつかの秘訣等についてお話しされました。

講演後の質疑応答では多くの参加者から質問があり、Evelyn 氏も熱心に答えられていました。

職場いじめはどこの国でも同じように起こっており、日本だけの問題ではないということを実感させられる内容でした。



臨床心理士 Evelyn M. Field 氏

>> Report 3

ハラスメント防止研修会を実施しました (H24.3.19)

はじめに、「第1回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞授賞式」が執り行われました。今回は3月5日に選考委員会が開催され、地域健康医学教室 岡本希講師が選ばれました。学長による選考の講評・賞状等の授与が行われた後、岡本講師から「大規模コホートに基づく高齢者のQOLと生活機能の阻害要因に関する疫学的研究」と題された記念講演をいただきました。

つぎに、広島大学からお招きしたハラスメント相談室室長・教授横山美栄子先生にご講演いただきました。

「キャンパス・ハラスメントをなくすために—医療系での事例を中心に」と題された講演では、ハラスメントに関する詳しい説明や、横山先生の経験から語られる理系・文系大学におけるハラスメントの違いについてお話いただきました。

同時に、女性研究者支援センターで制作したDVD「アカデミック・ハラスメントへの理解と発生防止—女性研究者が生き生きと働き活躍できる環境をつくるために—」を上映しました。このDVDは意識啓発の一環として作成したものであり、様々な事例とそれぞれの事例の問題点・改善例を紹介しています。



(左から) 喜多センター長、岡本講師、吉岡学長



広島大学 横山 美栄子先生

DVD 紹介

アカデミック・ハラスメントへの理解と防止 —女性研究者が生き生きと働き活躍できる環境をつくるために—

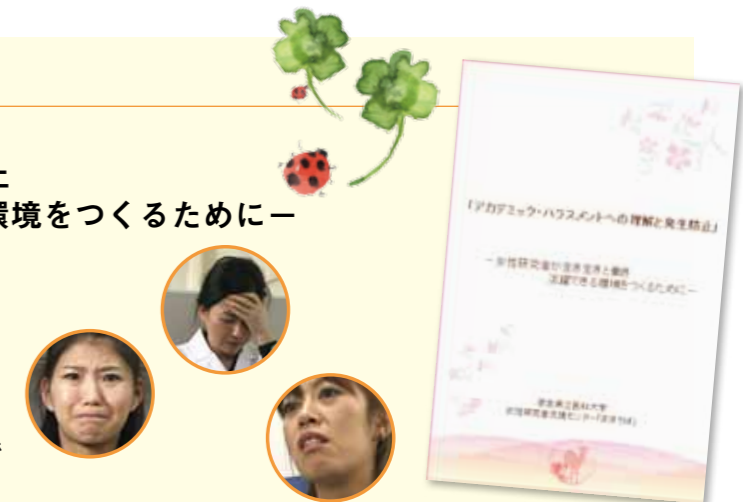
【事例1】研究者としては、私は、もうだめなのか

【事例2】研究者の芽をつむ指導

【事例3】コミュニケーション不足がもたらすもの
(カラー 23分)

センターで制作したオリジナルDVDです。

※学内関係者だけでなく、どなたでも貸出可能ですので
お気軽にお問い合わせください



相談窓口をご利用ください

- ・妊娠・出産・子育て・介護といったライフイベントと研究との両立
- ・ハラスメントや人間関係の悩み

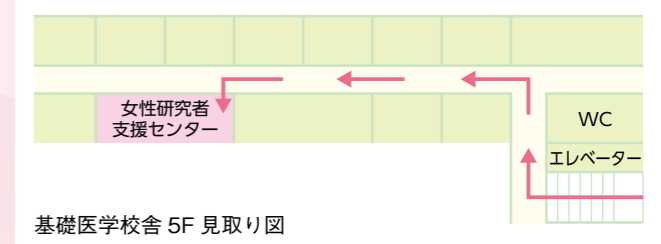
研究や仕事を続けていく上で困っていることや悩んでいることについて、一人で抱え込まず、ご相談ください。支援センターのマネージャーや心理相談員が相談に乗り、状況に応じて必要な支援を一緒にお探し、解決を図ります。



ご相談は、電話やメールで随時受け付けております。

女性研究者支援センター「まほろば」

基礎医学校舎5階
TEL : 0744-23-8011 (直通)
E-mail : jshien@naramed-u.ac.jp



基礎医学校舎5F見取り図

ハラスメントを未然に防ぐためのコミュニケーションスキルについて毎号ご紹介していきます。

第1回 『セクハラと言われなかったために』

今回はセクシュアル・ハラスメントをなくすためのコミュニケーションスキルについて考えてみましょう。まずは下記の2つの質問について考えてみてください。

Q1 指導教員が親しみを込めて肩を抱いたのを、セクハラと申し立てるのは女子学生の方に悪意があって、言っていると思う。

- | | |
|-----------------|---|
| ① そう（悪意からと）思う | × |
| ② どう考えていいかわからない | × |
| ③ そうではないと思う | ○ |



Q2 ハートマークの付いたメールが、学生から送られて来た。

- | | |
|----------------------|---|
| ① 自分への好意と受け止めた。 | × |
| ② 自分もハートマークを付けて返信した。 | × |
| ③ 事務的な返信をおこなった。 | ○ |



どちらのケースも背景によって捉え方は異なるので、これが常に正解！というものではありません。ただし、教員と学生、上司と部下のように上下関係のある場合には互いに節度をもってコミュニケーションを図るよう心がけましょう。

▶ あなたの言動は大丈夫ですか？

- ・「〇〇ちゃん」とちゃん付けで呼ぶ
- ・容姿や年齢についてからかう
- ・身体的特徴をあだ名にする
- ・不必要に身体に接触する
- ・食事やデートを執拗に誘う
- ・性的な冗談を言う
- ・「男のくせに、女のくせに」など性別を理由に不愉快な発言をする



まずは、自分自身のコミュニケーションのとり方に問題はないか考えてみてください。

親しさを表すつもりで言ったとしても、本人の意図とは関係なく、相手を不快にさせてしまうことでセクシュアル・ハラスメントに繋がってしまうこともあります。

職場やゼミ、研究室などの快適な環境づくりのためには、人間関係が非常に影響してきます。相手を不快にさせるような言動はせず、思いやりを持つこと・人との距離のとり方を心得ておくことが大切です。

[編集後記]

女性研究者支援センター「まほろば」のニュースレター創刊号がようやく完成しました。センターは全ての人々が学び、働きやすい大学を目指しています。これからセンターの取り組みについて、ニュースレターを通じて紹介していきたいと思えます。また、ご意見やご感想をお待ちしています。

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学校舎5階
TEL：0744-23-8011(直通)0744-22-3051(代)内線：2525
E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

